

新時代の 大型映像ビジネス

61

Dサイネージ用ソフト「DISE」

デジタルサイネージの総合展示会「デジタルサイネージジャパン(DSJ)2013」の会場内でひととき大きなブームを巻き起こしたのが、業界で20年以上の実績を誇るスウェーデンのKlockor社。Klockor社が提供するデジタルサイネージ用ソフトウェア「DISE」を使ったソリューションだった。日本国内でデジタルサイネージ用ソフトウェアといえば、米スカラ社が提供する製品の導入事例が多い。また各ディスプレイメーカーが提供するソフトウェアも普及が進んでいる。DISEは、アジアDISEの一角であるファン・ファクトリー社(東京都八王子市、大平富美子CEO)が約3年前から国内総代理店として展開中だ。

(川田宏之)

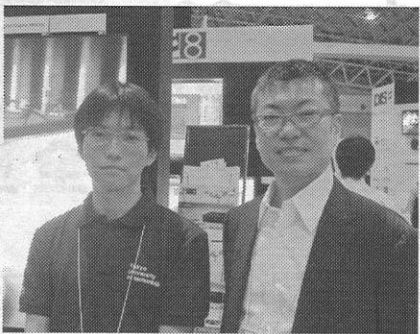
DISEの販売は、地

DSJ2013の展示

域ごとにカンパニー(DISE北欧、DISE中東・アフリカ、DISE英国、DISEアジア)があり、世界40カ国以上で取り扱っている。

大平氏は「国内ではこれから本格的に販路を拡大する。DISEは、特に多画面によるマルチディスプレイの演出で世界トップレベルにある」と言っている。

「(所在地が)同じ八王子市内という縁もあり、東京工科大学とのコラボにより産学連携の取り組みも3年前に開始した。また多くのディスプレイメーカーなどの協力を得て、今年の展示会では大きなブーム



東京工科大学講師の吉岡氏とチームリーダーの山田氏

●学生自らコンテンツを制作

DSJ2013で活用事例を紹介 産学連携での取り組みも展開

マルチ画面の演出で効果発揮

対応可能で、数十台の大型マルチスクリーンであってもドットバイドットで表示できる。また一台のディスプレイに1台のPCを使用することで、マルチシンクロシステムで複数画面の同期が可能だ。

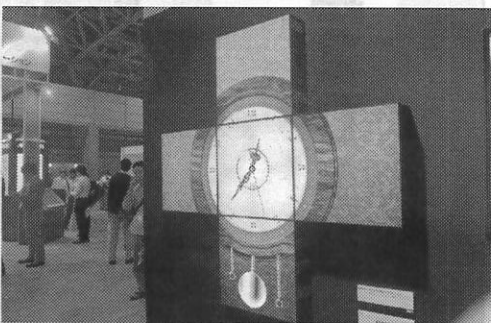
その中で筆者が注目したのは、東京工科大学と産学連携のソリューションだ。東京工科大学メディア学部は、国内の大学で初めてDISEを演習プログラムに導入。この成果を今回の展示会で披露した。ブームでは、

メディア学部の学生がコンテンツ制作や演出を手掛けたデジタルサイネージを紹介していた。学生の指導にあたって、東京工科大学メディア学部講師の吉岡英樹氏

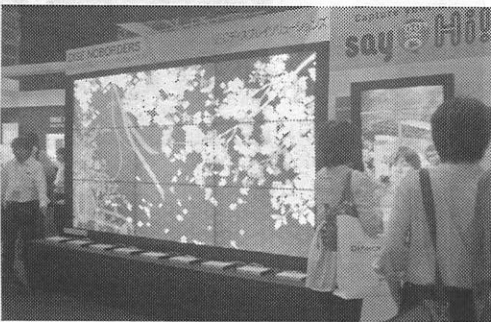
制作した同大学メディア生向けコンテンツが実際の学部コンテンツインベントリ研究(4年生)の山田翔一氏は、「春先から外れたコンテンツも、導入はしたものの利用が進んでいないケースが少なくない。今回は学生自身が「自分たちが使ってみよう」としてデジタルサイネ

ジを位置付け、ハードウェアだけでなくコンテンツも役立つシステムとなった。グローバルな人材育成を目指している。2010年から他大学に先駆けメディア学部でデジタルサイネージの研究開発に取り組んでおり、11年にはデジタルサイネージの導入支援をする「ファン・ファクトリー」と提携し、国内大学として初めてデジタルサイネージソフトウェアを導入。現在約20人の学生が継続的に同社のコンテンツ開発業務を手掛けている」と説明する。

チームリーダーとして、展示会用のコンテンツを制作しているという山田氏。これまでも大学の学

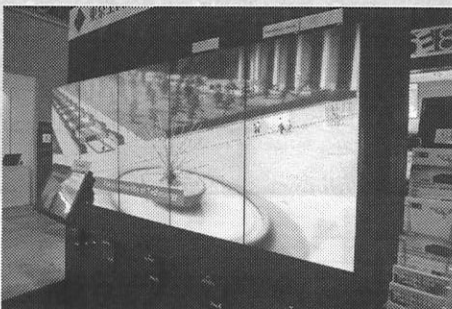


DISEを使ったタイル型液晶ディスプレイの表示例(NGCが展示)



DISEを使い表示するNECDSの大型9面液晶マルチビジョン

リエイティブな視点や、デジタルサイネージ全体のソリューションを提案する発想力が課題であると考えている。サイネージ業界ではハードウェア、ソフトウェア、ネットワークシステム、インターネットサービス、ソーシングなど、すべての要素に対する創造的なソリューションを提案できる人材が求められている。これらに対応できる人材を育成していくことが、今後のデジタルサイネージ先進国と言われる欧米などの企業と連携すること、グローバルな視点を持つことが重要だ。NGCは、デジタルサイネージの分野において、グループの中山真氏は、「タイル型液晶ディスプレイは、正方形のユニットを多様な形に組み合わせることができ、新感覚のデジタルサイネージディスプレイである。マルチ映像との相性が良いDISEと組み合わせることと訴求力のある映像媒体が制作可能」と話している。



東京工科大学の学生が制作したデジタルサイネージコンテンツ(ディスプレイはNECDS製の5面マルチビジョン、ソフトはDISE)

吉岡氏は「当大学では先駆的な取り組みとして、

●グローバルな視点

NECDSは、9面液晶マルチビジョンなどにDISEと東京工科大学のコンテンツを使ったシステムを展示した。プロジェクトを担当した吉岡氏は「日本のデジタルサイネージは、世界の先進国から数年遅れていると言われている。特にコンテンツについてク

映像新聞無料メールマガジン

Vizcom

映像新聞がお届けするメールマガジン「Vizcom」は、ビジネスに役立つ情報をいち早くご提供していきます。映像新聞および、映像新聞ウェブサイトも同様にご覧ください。

配信登録は
www.eizoshimbun.com

新発売

映像新聞 縮刷版

2012年後期版(7月~12月)

ご購入は映像新聞ウェブサイトからお申し込みいただけます www.eizoshimbun.com

アマゾン(www.amazon.co.jp)、富士山マガジンサービス(www.fujisan.co.jp)からもご購入いただけます

●ご購入のお申込み・お問い合わせはこちらへ

株式会社映像新聞社 〒112-0006 東京都文京区小日向1-24-8エイゾービル/TEL:03-3942-2161/FAX:03-3942-2581 e-mail:info@eizoshimbun.com

半年分の映像新聞を1冊にまとめた「2012年後期縮刷版」が発行となりました。めまぐるしく変化する映像業界の動向を集約する「映像新聞縮刷版」は、目次には、ジャンルごとに項目を掲載し、業界の動向が簡単に索引できるようにしております。企業のビジネス戦略において、貴重な情報ツールとして、また、保存版の映像新聞として広くご利用いただいております。

仕様: A4判/価格: 7,350円(税込、送料別途)

映像新聞
縮刷版
(2012年7月~12月)

2012

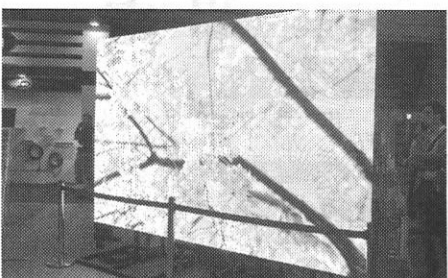
デジタルサイネージジャパン2013 各社が多様なソリューション提案



篠田プラズマの新製品「つながるSHIPLA (シプラ)」



三菱電機の「M-Signage」を使ったメインブースの展示



PDCの大型LEDディスプレイ「フォレストビジョン」

「デジタルサイネージジャパン2013」(以下、DSJ2013)が6月12-14日に千葉市美浜区の幕張メッセで開催。今年も多くデジタルサイネージ関連機器やソリューションなどが展示された。しかし、事業環境が悪化しているシャープ、パナソニック、ソニー、NEC、富士通、日立製作所、東芝などの国内の大手電機メーカーは専用ブースを構えず、ベンチャー企業やシステム・ソフトウェア関連企業、海外企業の出展が目立った。主な展示内容を紹介する。

●篠田プラズマ
篠田プラズマは、新製品の「つながるSHIPLA (シプラ)」を展示。これはプラズマディスプレイの1枚が高さ2.1m、幅1.1mの製品。従来の製品は高さ1.1m、幅0.8mの正方形のディスプレイだったが、高さを2倍にすることで画面のシームレス化を図り、より大きな目の少ない大型ディスプレイを実現した。技術改善が実現可能となった。

●三菱電機
三菱電機は、国内大手電機メーカーの中で唯一専用ブースを構えた。6月10日発売の中小規模デジタルサイネージ配信の新システムとして、同社の映像表示端末機器を「M-Signage」と、これに対応するサイネージプレーヤー「DPOVVS」を展示した。

「DPOVVS」は、新開発の配信基本ソフトウェアを付属。三菱電機製のバリエーション豊富なディスプレイなど、各種のディスプレイやフラットパネルディスプレイなどの複数の映像表示端末機器に一括して配信することが可能となる。その中でも注目されたのが、高精細LEDディスプレイの発売により、デジタルサイネージ市場でのシステム販売の強化を目指す。

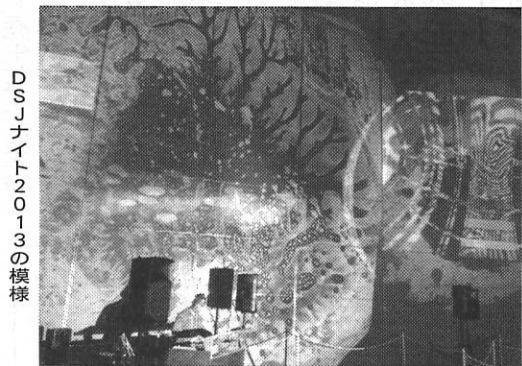
●PDC
パナソニックグループのデジタルサイネージ専門会社ピーディーシー(PDC)のブースでは、①クラウド型のデジタルサイネージシステム②複数の人が同時に操作できる

幅広い映像機器に対応したシステム

コンテンツの配信を一括管理

「DPOVVS」は、新開発の配信基本ソフトウェアを付属。三菱電機製のバリエーション豊富なディスプレイなど、各種のディスプレイやフラットパネルディスプレイなどの複数の映像表示端末機器に一括して配信することが可能となる。その中でも注目されたのが、高精細LEDディスプレイの発売により、デジタルサイネージ市場でのシステム販売の強化を目指す。

●PDC
パナソニックグループのデジタルサイネージ専門会社ピーディーシー(PDC)のブースでは、①クラウド型のデジタルサイネージシステム②複数の人が同時に操作できる



DSJナイト2013の模様

デジタルサイネージジャパン(DSJ)2013の併設イベントとして恒例の「DSJナイト2013」が、6月13日午後6時から約1時間開催された。

今年も幕張メッセホール内の特設会場、実施し、500人以上がプロジェクトセッションマッピング(PM)ショーを楽しんだ。最新のPM技術を駆使したライトショー・ラウン

恒例の「DSJナイト」開催

デジタルサイネージジャパン(DSJ)2013の併設イベントとして恒例の「DSJナイト2013」が、6月13日午後6時から約1時間開催された。

今年も幕張メッセホール内の特設会場、実施し、500人以上がプロジェクトセッションマッピング(PM)ショーを楽しんだ。最新のPM技術を駆使したライトショー・ラウン

プロジェクトセッションマッピングで演出

デジタルサイネージジャパン(DSJ)2013の併設イベントとして恒例の「DSJナイト2013」が、6月13日午後6時から約1時間開催された。

は社名にもなっている「MEDIAEDGE」の映像配信・表示システムを出展した。

●メディアエッジ
旧カノープスが開発、グラスバレーから12年に独立したメディアエッジ

同社のマーケティング部長の山田英二氏は「当社のデジタルサイネージにおける技術力・製品開発力は世界有数の競争力を有している。22年からは、複数の端末(スマートフォン、タブレット、PC)をまたいでコンテンツを連携・連動させるマルチスクリーンサービスの実現可能性が紹介された。

旧カノープスが開発、グラスバレーから12年に独立したメディアエッジ

同社のマーケティング部長の山田英二氏は「当社のデジタルサイネージにおける技術力・製品開発力は世界有数の競争力を有している。22年からは、複数の端末(スマートフォン、タブレット、PC)をまたいでコンテンツを連携・連動させるマルチスクリーンサービスの実現可能性が紹介された。



「MEDIAEDGE」の映像配信・表示システム



コネックス・ヒュンダイ・イノベーションの大型マルチ液晶ディスプレイなどの展示



NTTグループ「金沢物語スマートインフォメーション」

には、さつぽろ雪まつりの大雪像「歌舞伎座」の4Kリアルタイム映像を東京とシンカポールに実験配信することに成功。3月にはクラウドライブ・VOD配信サービスを開始するなど新たな取り組みにも積極的だ。

●コネックス・ヒュンダイ・イノベーション
コネックス・ヒュンダイ・イノベーションは、大型マルチ液晶ディスプレイから電子黒板に至るまで自社ブランドのデジタルサイネージのソリューションを大々的に展示した。

同社のマーケティング部長の山田英二氏は「当社のデジタルサイネージにおける技術力・製品開発力は世界有数の競争力を有している。22年からは、複数の端末(スマートフォン、タブレット、PC)をまたいでコンテンツを連携・連動させるマルチスクリーンサービスの実現可能性が紹介された。